

令和3年度 中学生の「税についての作文」

柏間税会会長賞

「もしものための貯金」

柏市立中原中学校 三年 木村 ころろ

インターネット上で出回っているとある税金を揶揄する表現がある。それは税金は罰金という考えだ。「働いたら罰金」、「死んだら罰金」。何をするにもついてくる税金を、罰金と考えているようだ。たしかに税金は生活していると取られてしまうので、「罰金」という表現もしくりくる。しかし私は、個人で解決できない問題を社会全体で助けるための貯金と表現するのが良いと思う。

今、税金のおかげで学校に通えている。税金のおかげで医療費が少なくなっている。不自由なく暮らせるお金を持っている我が家でさえ、税金で助けてもらっている。貧しい人々は生活保護をもらっている。こう考えると税金は国民を助けるヒーローだ。

税金という名のヒーローは、国民一人一人から少しずつお金をもらってできている。税金のものは個人のお金なので、税金をはらう一人一人がヒーローなのだ。しかし、税金に力をあげることが断れないので、心よく思っていない人もいる。その人は無理矢理お金をとられているので、「罰金」と表現するのだと思う。

こうして集まった税金は、お金持ちより貧しい人を助けるために使われる。「罰金」という表現の中で「働かなかったら賞金」とあるが、この中での賞金は生活保護の事にある。こういった生活保護などが貧しい人を助けている。貧しくなくても生活が少し楽になるように助けてもらっている。もしものための貯金をみんなできていると考えれば、税金に対して良いイメージを持つてると思う。

世界各国、税金が存在する。高い国の消費税は二十五パーセントをこえる。こういった国々は、消費税が高い分、教育、福祉が充実している。フィンランドの場合だとほとんどの大学の教育費が無料。スウェーデンだと子供の医療費が無料。高い税金を払って福祉を充実させるのと日々の税金は安くても教育費などを自分で負担するのではどちらが良いのだろうか。消費税の高い国はヨーロッパの北欧に多い。これらの国々は「世界幸福度ランキング」で上位の国が多い。そう考えると、消費税の高さと幸福度は比例するのかもしれない。もしかすると日々の高めの税金の積み重ねで幸福が成り立つのではないだろうか。その幸福が国民全員に行きわたっているといいが。

私は税金についてこう考える。「どうせ逃げられないなら良いイメージを持ち続けて幸せに生きよう」。いつか自分もたっくさんの税金に助けられることがあるかもしれない。実際に給付金という形で助けてもらった。もしものための貯金。税金とはそういうものだろう。